

会 議 記 録				
会議の名称	広報広聴会議			会議場所 全員協議会室
				担当職員 小川
日 時	令和7年11月21日(金曜日)			開 議 午後 4時00分
				閉 議 午後 4時30分
出席委員	◎木村 ○三上(広報部会長) ○林(広聴部会長) 竹内 小林 大塚 大西 山木 梅本			
執行機関 出席者				
事務局 出席者	小川次長、上西主査、田中主事			
傍 聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員0名()

会 議 の 概 要

16:00~

○開

【事務局日程説明】

1 広報部会の活動について

<三上副委員長(広報部会長)>

議会だより207号の掲載事項について確認した。1月31日発行予定であり、2月2日から自治会を通じた全戸配布の予定である。お気づき点、ご意見ご要望があれば広報部会に寄せていただきたい。今年度の広報部会はこれで最後となるので、来年度への引継をちゃんと精査するつもりである。議会だよりの編集作業と同時進行で1月末までに準備を検討している。

— 委員からの質問等意見なし —

16:05

2 広聴部会の活動について

<林副委員長(広聴部会長)>

広聴部会の方から特にわがまちトークについて、活動の報告をさせていただきたいと思う。10月の中旬から11月上旬にかけて4回開催した。木村委員長、そして広報部会の皆さんには、本当にお世話になり、無事終わらせることができたと感謝している。参加者が提出したアンケートはすべてしっかり書いていただき、来年度につなげたいと思っている。10月15日にかめたんレザミtetote、そして11月5日にトーキョーコーヒー亀岡及びJun wa、11月7日に旭町自治会と行い、11月10日は令和8年はたちの会実行委員会の皆さんと開催をすることができた。今年度は、アイスブレイクという形で、自己紹介と合わせてお題を入れて一言話していただく形を取り、本当にスムーズにできたと思っている。進め方については、付箋を利用して、グループワーク形式で行うことは昨年と同じだが、今回のグループ

ワーク形式は、本当に意見が出しやすかったと、皆さんから評価していただいていることがアンケートの回答で分かった。少人数グループに分けたこともよかったということがアンケートの回答で分かった。来年度に向けてつなげていただければと思う。取組の中で、スムーズに意見が出て、本当に素晴らしいイベントになったと思う。特に、参加人数等の詳細は、別紙1のとおりまとめているので、ご覧いただければと思う。先ほど広聴部会においてこの活動の振り返りを行い、委員から意見が出された。要望の場ではないとお願いしていたが、今後この話の内容がどのように扱っていただけるか期待をしたいということが、特に若い方々から意見が出ているので、しっかりとまたフォローアップの仕組みを検討したいと思う。委員から、旭町自治会から4つの題目を提案していただいたが、4つの題目は多過ぎるので、結局3つの題目にしたが、3つの題目も多過ぎたという意見も出た。地元からはわがまちの再発見ができたとか、顔は知っていたがなかなか話したことがなかった方々との新たな交流の場ともなったというような意見も出していた。そしてはたちの会は、議会だよりをほとんど見てないと言われたので、若者への発信が、課題ではないかと感じた。今回わがまちトークを通じて議会と親しみやすくなったとか、議会との距離が近くになったとの意見もたくさんいただき、また議員との交流の場をもっとセッティングして欲しいという意見も出していたので広聴部会として一定の役割を果たし、成果を出せたと思っている。本当にしっかりと引継事項をまとめて来年度につないで行くようにしたい。

<木村委員長>

今の報告について質問や意見があるか。

<三上副委員長（広報部会長）>

わがまちトークも外からの写真撮影だけではなくスタッフとして加わることができたのでいろんな意見交換をさせてもらった。私からちょっとまとめさせていただいて足りない点はまた付け足したていただきたいと思う。基本的にやっぱりどれもよかったと思う。去年によかったことを継承してやっていたので、よかったと思える結果となった。どれも成功したと思っている。去年の議会だよりの3、4ページを示す。ここに、こういう形でやりましたよって書いてあり、これに基づいてやっていただいたと思う。まず書く、それから書いたことを元に話す聞く。全部見る、つまりみんなで思うあるいは考えた意見を共有するということによきがある。だから1人1人のつぶやきが共通してみんなが「あ、こんな街になったらいいね」「こんなもんが欲しいよね」とかいうことが出て、それをどうしていったらいいんだろうということで、議員だから議員でなんとかしてくださいみたいな話になった。フォローアップの大事なところだが、前はそれを委員会に上げてやったが、結局そんな予算の権限もないし、これやりますとも言えないし、誰かが議会で質問を取り上げるしかなかった。だから木村委員長が司会の中で要望を受け入れる場ではないということをあえて言われてきた。だから最後にその切実な要求を叶える道筋はこんなものがありますよということを書いてあげないといけないと思う。例えば議会では陳情要望請願署名もできる。だから市長に対しても陳情要望できる、市長への手紙もある、ということを知っていただき、みんなが声を上げたら実現をすることもあるということを説明したら、では私たちも自分たちでなにかやろうということを実行員に実現してもらおうとかではなく、自ら主体的に動いていこうとする人を作っていくことができ、議会にも関心を持ってもらい、議会を活用してもらい、要望だけ言ったのに何もやってくれないのではなく、自分たちもそれを叶える立場に立つという主体的に要望していくあるいは、声を上げていくことができる人たちをたくさん作っていくことが目的ではないかと思っている。だから、最後にふりかえり

あるいは考えるの時間をしっかり取ると、そこで今言ったようなことが話題になると効果が上がると思う。どうしてもアンケートを書くことだけに終わってしまっているが、最後に時間を取ることが大事であると思っている。あと、今回アイスブレイクの時間だけではなくて、もう来た時からアイスブレイキングだと思われる全体的な雰囲気、それから服装の配慮と話しやすい環境をつくる努力を広聴部会がされておられたことがよかったと思う。そういう努力も評価されるべきだと思う。あと付箋を貼ることをKG法と言うが、仲間分けをするという作業をやってもらった。あれがやはりすごく効果的だと思う。みんながその中で、それを議員がやるのではなくて自らやってもらう。それで人の意見も見て、これとこれ一緒とかこの人の意見もそうかと、これは少し違うので、もう1つ別のグループ作ろうとか、すごく可視化できた。全体の想いが共有されることが大事な時間だったので、これを外さないように来年度から続けてやってもらえるとこの付箋を使うやり方は大丈夫ではないかという話も広報部会に出ていた。木村委員長にもグループから離れて全体を統括する役をしてもらった。そういう人がいないと時間の管理もできないし、例えば終了まであと5分前であるとか告げて、そろそろまとめてくださいねとか、そういうタイムスケジュール管理をすると、一生懸命話をしている人に対しても、まとめに入りましょうとかもう少し急ぎましょうとか、そういう話ができるので、時間管理のアナウンスも必要である。トーキョーコーヒー亀岡、Jun wa の時に、残り時間は1分であるが大丈夫ですが議員にもう1つ聞いてもよいですかと聞かれたのでよいですよと議員が答えたと同時に進行役からそろそろ時間になったので座ってくださいということがあった。そういうところを見て思ったのは、もう時間だからと言って区切るのではなくて、残り1分ぐらいの間に質問していただき、議員が答えられるようにすると参加者の想いが成就されるようになる。トークは生き物だから時間の融通とかを利かすことも大事である。議会運営委員会の行政視察に行って学んだことがある。早稲田のマニフェスト大賞を受賞した議会では、初めに簡単な話し合いのルールを決めている。「1人が長く話さない。」「否定しない。」「みんなが楽しめるようにみんなで盛り上げる。」この3つがルールである。はたちの会では3人の女性と1人の男性のグループがあり、男性がシュンとしていた。このルールがあると一定解決できる。みんながこの話し合いの目的とかルールを共有するために、わがまちトークにどのように関わっていったらよいのかを最後に話し合えばよいと思っている。そういう投げかけを最初にしておくことも大事ではないかと思う。和やかな雰囲気で行う手法にワールドカフェ方式がある。つまり飲み物と簡単な軽食があって、和やかな雰囲気でも飲み食いしながら気楽に話せる方法を採用しているところが多い。予算が伴うので、どこまでできるか分からないが、今後は検討してもよいのではないかと思った。

<木村委員長>

他に意見はないか。

<竹内広報部副委員長>

今、三上広報部会長が言われたことを次回の会議の冒頭に共有する時間をぜひ取った方がよいと思う。去年は去年、今年は今年みたいになりがちであるので、これをうまく取り入れていくためにも次年度の委員も交えて確認する時間を取るべきだと思う。

16:25

5 その他

<木村委員長>

議会運営委員会の議会活性化の中で議長から意見があった、広報広聴委員会が来年度から議会モニターさんとの関わり方について、今年度の議会モニターさんはそれほど活発には動いておられない方もおられ、まだ1回も傍聴等ができてなくて中間報告書の提出を迷っておられる方もいると聞いている。今後の関わり方を今ここで意見交換しても結局結論がでないこともあり得ると思われる。そこで事前に議長と相談した結果、正副議長と広報広聴会議委員長と広報広聴両部会長と事前に協議をして次年度はどういう形にするかの方向性を出そうという話になった。今日の会議をこれで終わらせ、次回の広報広聴会議では、協議した結果を報告し、皆さんにどのような形にするかの意見を伺い、決めていきたい。

— 委員からの質問等意見なし —

<木村委員長>

特になければ、広報広聴会議を散会する。

散会～16:30